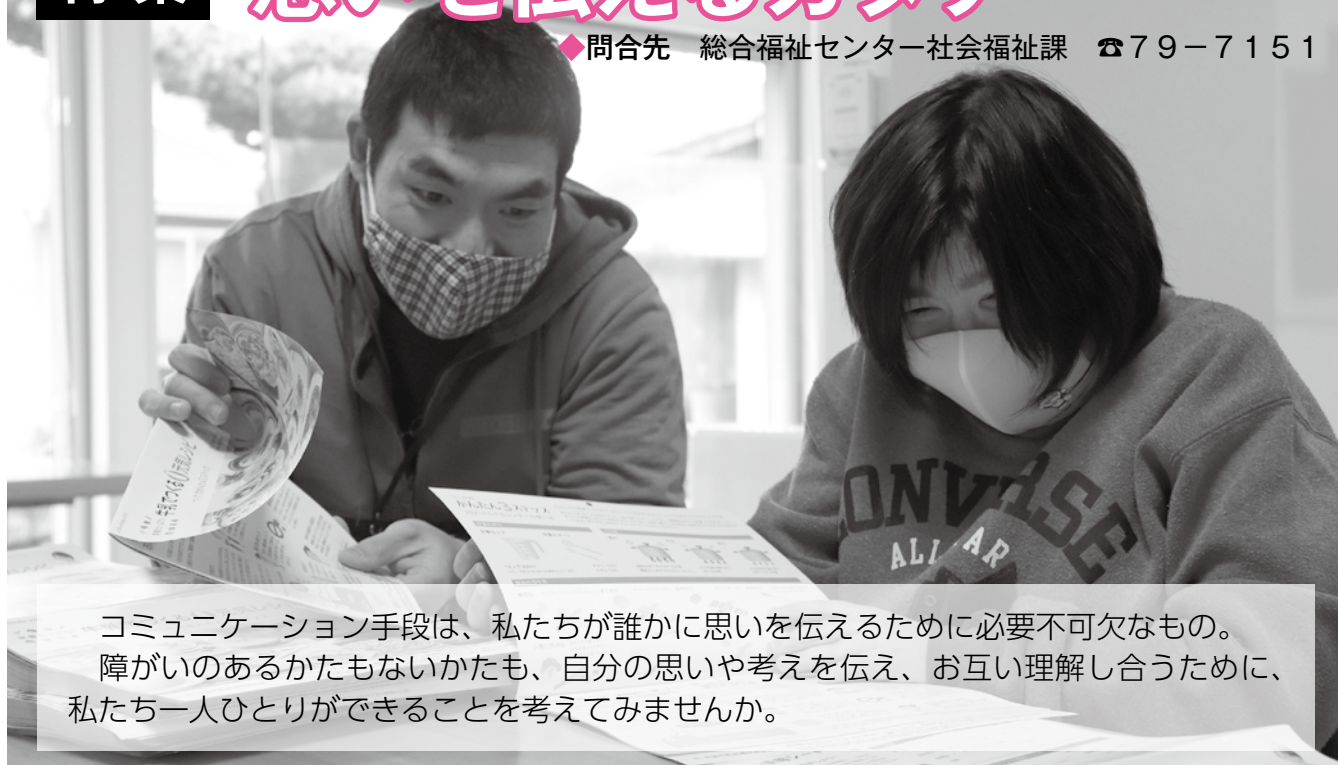


特集

思いを伝えるカタチ

◆問合先 総合福祉センター社会福祉課 ☎79-7151



コミュニケーション手段は、私たちが誰かに思いを伝えるために必要不可欠なもの。
障がいのあるかたもないかたも、自分の思いや考えを伝え、お互い理解し合うために、
私たち一人ひとりができることを考えてみませんか。

思いを伝えるカタチは さまざま

あなたは自分の気持ちを伝えるときに
どのようにして伝えていきますか。

まず、思い浮かぶのは、文字や音声な
どでのコミュニケーション手段ではない
でしょうか。しかし、「音が聞こえない」
「目が見えない」「身体を動かせない」と
いった場合にはどのように伝えますか。

本市では障がいの種類に応じて障害者
手帳を交付しており、手帳を取得してい
るかたは、令和2年10月末時点で3,6
87人います。

障がいには、音が聞こえない、または
聞こえにくい「聴覚障がい」、目が見え
ない、または見えにくい「視覚障がい」、
自分の身体を思うように動かせない「肢
体不自由」や体の内部に障がいを持つ「内
部障がい」などの「身体障がい」、知的
機能に発達の遅れがある「知的障がい」、
精神疾患のために日常生活や社会生活で
の制約がある「精神障がい」などさまざま
です。

障がいのあるかたが利用するコミュニ
ケーション手段には手話や点字、音訳、
コミュニケーション支援ボードなどさま
ざまな方法があり、障がいの種別やその
程度によって、利用するその手段が異な
ります。

そして、そうした多様なコミュニケー
ション手段は意思疎通や情報を得る上で
必要不可欠なものであるにもかかわらず、
利用しづらいのが現状です。

誰もが安心して暮らすこと ができるやさしいまちへ

本市では、令和2年4月に「香芝市手
話言語及び障がいの特性に応じたコミュ
ニケーション手段に関する条例」を制定
しました。

この条例により、手話が言語であると
いう理解を促進し、障がいの特性に応じ
たコミュニケーション手段の普及と啓発
を行うことで、誰もが安心して暮らせる
やさしいまちの実現を目指します。そし
て、条例では市の責務、市民及び事業者
の役割が次のように定められています。

○市がすること

手話言語への理解と障がいの特性に応
じたコミュニケーション手段の利用に
対する取組を進めます

○事業者の皆さんができること

障がいのあるかたが利用しやすいよう
に配慮することと、働きやすい環境を
整えるよう努めてください

○市民の皆さんができること

手話言語と障がいのあるかたへのコミ
ュニケーション手段に対する理解を深
め、市が行う取組にご協力ください

障がいのあるかたもないかたも、思い
や考えを伝え、理解し合うためには、障
がいの特性を知り、その人にとって利用
しやすい手段を選ぶことが大切です。

まずは、障がいの特性とコミュニケー
ション手段について知ることから始めて
みませんか。